

令和4年6月13日

## 令和3年度社会福祉法人あそう事業報告

社会福祉法人あそう

理事長 南光 三郎

令和3年度の事業報告を致します。決算内容から見ますと資金収支計算書にて、収入が予算比－72,287千円余と苦戦をしていました。原因はコロナの影響が大きく響きました。職員も陽性者、濃厚接触者延べ25名を超す状況で勤務シフトの作成に大変苦慮いたしました。デイサービス、短期利用者を限定しながら運営をしてまいりました。但馬管内の福祉施設でクラスターの発症事例もありましたが、法人あそう内では施設長職員一同万全の体制を敷きながら日夜努力をしてまいりました。今後共十分注意しながら運営してまいります。

この中で、積立金50,500千円で国の指針による収入の3%が適正との指導はクリアしていますが、経営上はかなり厳しいものがあります。資金収支計算書の当期資金収支差額合計は－446千円余となりました。

事業活動計算書の当期活動増減差額は77,588千円余のマイナスとなりました。原因は、収入減と人件費比率が73%台と高くなっていること、そして不明金の処理として61,721,260円が

費用として発生したこと等が原因であります。今後の課題として人件費比率は70%以下を目標に定め努力してまいります。なお減価償却費は145, 240千円余を計上しています。

貸借対照表では、不明朗な貸付金の処理として、その他の固定資産の61, 721, 260円を処理致しました。積立金は累計931, 000千円となり、退職給付引当金は213, 918千円余。又、本年6月末の職員賞与引当金96, 480千円等を計上しています。

現在の資金面に於いて心配する状況ではありませんが、ウクライナ問題が物価に響き、電気、ガソリンを始め日用品の全てに値上げが進み経営が苦しくなって来ると予測をしています。施設長を中心に、現状の人員で収入を増す努力をすることにしています。只、現在コロナが終息していない状況につき大変厳しいのが現実であります。

介護職員については、やや不足していますが職員にも協力頂き友人、知人等を紹介して頂いています。

各施設の現状ですが、特養の稼働率は緑風の郷88%。デイサービスがやや低迷をしています。はまなすは苑介護職員不足から80パーセント前後と低迷をしています。ここのかは特養98%以上、只、短期入所、デイサービスが伸び悩んでいます。おおやの郷は特養96%前後で推移していますが、デイサービスがコロナの影響で利用

者減がありましたが総体的に安定した運営がなされています。

以上、令和3年度あそこの事業報告と致します。

# 令和3年度 緑風の郷 事業報告書 全体総括

## 1.はじめに

- コロナ禍での生活が2年目を迎え4~5カ月周期に感染拡大期がありその都度変異株の発生があった。
- 小さな子供を中心に流行し濃厚接触者として職員の家族の出勤ができない状況が続いていた。また、職員にも感染者が複数名出るなど個々の注意喚起や基本的な感染予防では感染が防げる状況ではなくなってきた。
- 令和3年決算ではコロナウイルスの影響も大きく特にデイサービスなどでは利用控えで収入に影響があった。今後もコロナの影響の拡大や長期化などが懸念される。
- 令和3年4月報酬改定では、0.7%のプラス改定、令和4年2月から9月までは「介護職員処遇改善支援補助金」を受けて職員の処遇改善を行った。

## 2.特別養護老人ホーム緑風の郷・短期入所生活介護

- 退所者21名（15名看取り）特養の平均利用率87.9%、短期入所稼働率81.2% 退所者が多く空床期間が影響し予定を下回った。
- 新型コロナ対策で年に2回シミュレーションを行うなど感染対策など力を入れてきた。
- コロナ禍での外出の自粛や面会の制限など利用者の生活については昨年同様に他者との交流が少なくなってしまった。
- 介護の人材不足は朝来市においても例外ではなく近年、特に目立ってきた。また、介護従事者の平均年齢も毎年高くなり人材確保についても急務である。
- 令和3年報酬改定で「科学的介護情報システム（ライフ）」を使用した新たな加算（栄養マネジメント強化加算、科学的介護推進体制加算）にも取り組んだ。今後はフィードバックを活用しケアの質の向上に努めて行きたい。

## 3.デイサービスセンター緑風の郷

- 平均利用者数21.5人昨年より15.4%低下した。コロナ禍において利用控えの影響があった。
- 令和3年報酬改定で「科学的介護情報システム（ライフ）」を使用した新たな加算にも取り組んだ。（科学的介護推進体制加算）
- 昨年同様に「3密」を避けるため利用者間の距離の確保や検温の回数増加等、介護に対して時間と労力を要している。昨年と同じく地域ボランティアの交流はなく自粛状態が続いている状況である。

#### **4.グループホーム緑風の郷 木の香**

- 平均稼働率96%、転倒によるけがの為、長期入院が余儀なくされた。
- 新型コロナウイルス感染予防の為、面会の自粛、外出の制限などあったがオンライン面会やご家族からの手紙をいただく等工夫しながら外部との交流に努めた。
- 広報誌の発行（年4回）、ホームページの更新（月2回）は定期的に行っている。

#### **5.緑風の郷居宅介護支援事業所・高齢者相談センター**

- レセプト件数は年間、ケアマネジャーひとりあたり、山東35件、和田山41件（総合事業含む）を受け持っている。相談センターとして（相談件数1,122件、訪問784件）の実績があった。
- 独居や高齢者のみの世帯数が増え困難ケースも多くみられるようになつた。令和3年報酬改定で各事業所が取得する加算も複雑化するなど給付管理に注意を払いながら限度額の利用範囲でサービスの調整を行つた。
- 介護保険、行政サービスにつなげる際に必要な手順や書類等の確認事項の「業務手順書（フロー）」を作成し書類の不備や利用者への説明の統一化を行う予定であったが一項目のみの作成となつた。
- テレビ電話やWeb会議の様々なコミュニケーションツールを活用し研修会への参加、同じく介護支援専門員更新研修も3名受講を行うなど遠隔地からでも研修会に参加することができた。
- 毎月実施している居宅会議を通じケアプランの作成手法や研修にも力を注いだ。

# 令和3年度 はまなす苑 事業報告書 全体総括

昨年に引き続き、新型コロナウイルス（COVID-19）変異株が、但馬管内でも多数の感染者が確認され、終息の兆しがなく、感染予防に警戒が必要な状況が続き、施設運営にも大きな影響を及ぼした。昨年度に続き、面会禁止の状況が続き、オンライン面会や窓越し面会のみの対応となり、入居者や家族にも不便な状況が続きました。大きな行事や外出の行事などの見送りに伴い、入居者の生活にも大きなストレスを与えることとなった。人材に関しては、年度内に新規介護職員6名採用、2名の高年雇用者の退職。育休中の職員4名の復帰により、昨年度に比べ飛躍的に安定してきた。事業計画の実施計画に関しては、コロナ禍の状況が続き、実施が出来なかつたことが多いが、入居者のストレス軽減に向けて可能な限り楽しみの時間も確保することができた。コロナ感染予防に対し常に緊張と警戒を必要とした年度であり、昨年度同様、事業計画そのものは足踏み状態であった

## 【各部門の総括報告】

### ・特養部門（長期入所）

スタッフの確保も整い、感染予防に注意しながら徐々に入所人数を増やしていくことができたが、地域内での感染状況も増加傾向にあった為、事前の抗原検査や発熱者の抗原検査等に警戒した対応を余儀なくされた。終末期の方々への対応には細心の注意を払いながら家族との面会を実現していただき、有意義なターミナルケアを実現することも出来た。ICTの活用でインカム活用でスタッフ間の連携の向上に繋がった。また、介護ロボットの導入により、日常の見回り支援でのスタッフの負担軽減や転倒事故の防止にも一定の効果が表れた。年度後半にスタッフが増員した為、3月長期の入所稼働率は86.69%と上昇傾向にあったが、年度後半までの稼働率が低かったため長期入所の年間稼働率は80.58%と目標値を下回る結果となった。

### ・特養部門（短期入所生活介護）

昨年に続き、コロナ警戒の影響で利用時の発熱や体調不良のため利用制限に至ったケースや新規利用の受け入れに慎重な対応を取らざる得ない状況であり、年間稼働率は68%と目標値を下回る結果となった。今後も安定した利用が適うよう取り組んでいきたい。

### ・はまなす苑居宅介護支援事業所

利用者のニーズが複雑化するなか、施設利用も視野に入れた計画を立て、ショートステイや長期入所への連携も行えた。介護教室などの取り組みの実施は叶わなかったものの今後も地域に根付いた居宅介護支援事業として取り組んでいきたい。

### ・ケアハウス

外出レクリエーション等の行事は実施しがたい状況ではあったものの、小規模での外出や買い物支援等を通して、ストレス解消に努めた。手芸等のレクリエーションも行い、施設内で安心した活動ができるよう支援を行った。また、担当ケアマネージャーと連携し、個々に必要な介護サービスの提供にも繋げることもできた。

### ・支え愛通所サロンはまなす

個々の利用者は日々の生活の中で取り組みを通し、自身の力で日常生活の介護予防に取り組む姿勢が継続してきたが、利用者の高齢に伴う対象者の減少が顕著であり、現在は3名の対象者のみで行っているが、コロナ禍の影響もあり十分な活動が出来なかつた状況でもあった。

## 令和3年度 おおやの郷 事業報告書 全体総括

令和3年度は、新型コロナウイルス感染の脅威に常に不安を感じながら運営した年度ではありましたが、事業実施計画を基に利用者が求めるニーズを的確に把握し介護サービスの提供に努めて参りました。

新型コロナウイルス感染に関しては、市内の福祉施設でクラスターが発生する中、施設内での感染リスクを想定した迅速な対応、行政などからの情報提供及び指導を受け施設内感染拡大の防止に努め、現状では職員4名（介護職2名・栄養士1名・調理員1名）の感染者が出たものの、利用者の感染者は0名でした。しかし昨年に引き続き、感染拡大防止への対応が常に優先となり、施設行事の制限や外部との交流禁止など様々な行動制限が求められる中、少しでも利用者が楽しみある生活を過ごしていただくために、施設行事などを分散化し少數参加にて季節に応じた行事の実施に努めると共に、長期間続いている面会禁止への対応としてオンラインでの面会方法を確立させ、多数の家族に幅広く利用していただくことが出来ました。

人材確保に関しては、近年少子化の影響により労働人口が減少する社会環境の中、介護分野においても人材の確保が極めて難しい状況であり、今年度においても採用職員5名（紹介制度採用1名）に対し退職者が7名あり慢性的な人材不足が深刻な課題となっています。このため、年間を通してより有効な媒体などを活用し、地道な採用活動を継続するとともに、業務の効率化と介護事務業務の簡素化を図る事により職員への負担軽減を図り、人員体制の確保に努めて参ります。

### 1. 特別養護老人ホームおおやの郷（長期入所・短期入所生活介護）

日常の健康管理や各種感染症への予防を中心とした感染対策の徹底と状態変化時への早期対応に努め、入院者数及び入院期間が前年度に比べ32%減少することができました。しかし、退所者19名（施設看取りケア13名）に対する新規入所に関して、コロナ禍の影響を受け福祉や医療事業所への入所事前面接まで期間の長期化や市が推奨する入所事前検査（PCR検査）が必要以上の期間を要するなど、退所後の空床期間が大幅に増加（前年度比378日間の増）し、目標稼働率97.5%に対し96.5%（前年度比1.0%減）と目標数値を下回りました。

短期入所生活介護に関しては、長期的利用の受入を積極的に努めましたが、コロナ禍の影響により一時的な利用制限を行ったこともあり、目標稼働率90.0%に対し85.5%（前年度比9.8%減）と目標数値を下回りました。

## 2. デイサービスセンターおおやの郷（認知症対応型通所介護）

事業運営に関しては、特にコロナ禍の影響もなく利用者の定着可と利用日数増に対する依頼も柔軟に対応し取組んで参りましたが、契約利用者の長期入所による利用中止や体調不良などによる長期的入院及び新規契約者1名と過去3年間の平均13名に比べ低迷した事も重なり、目標稼働率77.0%に対し68.5%（前年度比11.1%減）と目標数値を大幅に下回りました。

今後も利用者及び家族のニーズに対応し、地域での感染症が発生した場合であっても可能な限りサービスの提供に努め、利用者及び家族の利便性を損なうことが無いよう取組んで参ります。

## 3. 生活支援ハウスおおやの郷

昨年度に続きコロナ禍の影響により、近隣の学校や自治会主催の地域行事などが中止になり外部との閉鎖的な環境ではありましたが、併設の通所レクや施設行事には積極的に参加していただくなど、生活意欲の維持と向上に努めて参りました。稼働に関しては、退居者もなく満床での安定した運営ができましたが、利用者の入院による空床期間があり、目標稼働率100%に対し98.5%と目標数値は下回りました。

## 令和3年度　ここのか　事業報告書　全体総括

### 1. はじめに

全職員が協働して地域の高齢者福祉の中心的役割を果たすため各事業に積極的に取り組んできた。しかし、今年度もコロナウイルスの拡大に伴い各事業の進展に影響を及ぼした。

相変わらず新型コロナウイルスの発症が全国で問題となるなか豊岡市においては感染者数が減ることなく、施設対応として行事等の縮小や中止を含め面会の禁止や衛生面の徹底を図り、短期入所、ティサービスに於いては利用時の確実な健康面の把握を行うことで感染を抑えることができたことで、今後も継続することの必要性を改めて実感することができた。

しかし、入居者や利用者の感染は予防することができたが、職員に於いては3名が感染、1名が濃厚接触者となり10～7日間の休業を余儀なくされ業務に支障が生じた。感染源については全て家庭での子供からの感染であることが判明し、今後も学校等の情報を十分に把握し入居者への感染や職員本人の感染予防に努める必要がある。

職員研修についてはwebでの参加が増えるなか各種研修に積極的に参加を心掛けた。資格取得にも支援を行うことにより、特養でも高齢化や重度化に伴い必須となる喀痰吸引の研修に取り組み2名が資格を取得するなど職員の質の向上を図ることに努めた。

地域貢献の一部として計画していた専門職の地域派遣について、一般地域への派遣はコロナ関連で派遣することができなかつたが、支え合い通所事業の開催日に合わせ相談員をはじめ看護師、介護士、管理栄養士、ケアマネを派遣し、介護・健康・食事・介護保険等について説明の機会を設けることができた。

また今年度より八代地区の高齢者の集いの場に弁当の提供を始め好評を得ていることから、今後も提供の場を他の地域にも拡大していきたい。

財務については、短期入所事業と通所事業に於いては各家庭やご本人の感染予防のためのキャンセルも続き利用にも大きな影響があった。

各事業単位では目標達成が出来なかつたが、今後も収入増加を図るため事業の見直し等も行い、新規の加算も取り入れ収入の増加に繋げられるように努めていきたい。

### 2. 特別養護老人ホームここのか（短期入所生活介護を含む）

職員の退職が続き人手不足の中ではあるが、入居者や利用者の想いを聞き取り希望に沿った行事、外出、バイキング食、居酒屋など縮小しながらではある

が、年間を通して楽しんで過ごして頂くことができた。しかしコロナの影響で盆踊り大会を始め多くの計画が未実施で終わった。また面会中止が長期に渡ったこともあり入居者のストレスも高まり精神面での支援に努めた。財務面では空床期間の短縮を図るため健康状態の把握に努め、入院を減らすことや退所後の早期受け入れを進めた。短期入所についても職員の勤務調整をしながら積極的に受け入れを進めるとともにキャンセルが出た場合には待機者の利用を進めてきた。しかし長期入所については稼働率を99%と設定していたが、入院者が多く98.44%と目標の達成には至らず、また短期入所については92%の稼働率を設定していたが、85.08%と目標を達成することができなかった。

### 3. デイサービスセンターここのか

積極的な受け入れ行ったが当初目標の90%（1日27人）に対し66.16%（20人）と目標を達成することができなかった。当日のキャンセルを見込んで受け入れ調整を行ってきたが、コロナ自粛に対する自己都合、緊急入院や体調不良により年間平均7.41%（前年6.45%）のキャンセルがあった。次年度は利用増加を進めるため希望者の体験利用が出来るような制度を考えていく。

### 4. ここのか居宅支援事業所

豊岡市の委託事業を受託したこともあり目標達成率47人としていたが、平均36.5人と達成することができなかった。今年度末にケアマネジャーが退職し、事業そのものの継続ができなくなりやむなく休止するに至った。今後も、ケアマネジャーの募集を続け、事業の再開を目指したい。再開が出来れば短期入所利用やデイサービス利用の増加に繋げることが可能になると考えている。

### 5. 豊岡市支え合い事業（通所介護・生活支援サービス）

在宅介護に重点が置かれるなか、自宅で介護をする家族の負担軽減のため、豊岡市の「支え合い事業」を通所介護として地元八条地区と日高町の国府地区、日高町の八代地区の3か所で通所事業を行っている。市内で支え合い事業が行われていない地域も多くあり、今後新たに取り組めそうな地域について検討していきたい。また生活支援サービスとして、八条地区の利用者に安否確認を含めて自宅を訪問し買い物、掃除の支援と配食を4件（週3回程度）に対し行っている。